

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	家庭			授業形態	講義				
科目コード	750085	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	堂園 敬子							ICT活用	○
授業概要	<p>小学校家庭科では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」の育成を目指します。そこで本授業では教材研究や実習、実技を通して小学校家庭科で扱う内容、特に実習内容について理解を深めさせます。また、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れます。特に、小学校家庭科で扱う食分野の「ご飯と味噌汁」「非常食」「自由献立」衣分野の「ミシンをつかったのバッグづくり」手縫いの「フェルト小物づくり」などを実際に行うことで、子どもたちがぶつかる困難さや作り上げたときの達成感などを味わうようにさせます。</p>								
関連する科目	<p>家族・家庭生活では「道徳科」、消費者教育の分野では「社会科・公民」、食の分野では「社会科・経済」との関連があります。</p>								
授業の進め方と方法	<p>前半の6回の授業は、家庭科教育の「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の学習内容の理解を中心にICTを活用した講義形式で行います。後半の9回は、家庭科の授業において子どもたちが最も楽しみにしている実習の基礎・基本となる内容を実践します。子どもたちは楽しみにしている調理実習や裁縫などを短時間で確実に指導する必要がありますが、学生の実技技能は未熟であるので、本講義で少しでも経験を深めさせる必要があると思います。また、新学習指導要領に新設された「消費者教育」については、契約や消費者トラブル等にも詳しく触れ、グループで考え、ゲームを取り入れた授業を行い興味関心を深めます。近年、日本を大きな災害が襲い、防災はぜひとも触れなければならない内容なのでその中の「非常食作り」を体験します。実技では、日本の伝統である着物の着付け、調理実習、バッグ（トートバッグ、吾妻袋）製作を行います。実技等の際には、材料等の準備が必要となってきます。</p>								
授業計画【第1回】	<p>オリエンテーション 授業の進め方の確認、「ゲーミフィケーション」でグループ作り</p>								
授業計画【第2回】	<p>家庭科教育の意義～ 家庭科をなぜ学ぶのか。家庭科の歴史を探る。～ 自己紹介をする。育てたい力を学ぶ</p>								
授業計画【第3回】	<p>「A 家族・家庭生活」の指導内容・学習内容についての理解する。 ～多様な家族と家庭生活を学ぶ～</p>								
授業計画【第4回】	<p>「C 消費生活・環境」の指導内容・学習内容についての理解する。 ～消費者教育：売買契約と消費者トラブルを学ぶ。～</p>								
授業計画【第5回】	<p>「C 消費生活・環境」の指導内容・学習内容についての理解する。 ～消費者教育：「悪質商法撃退アクションゲーム」をしてみよう。～</p>								
授業計画【第6回】	<p>「B 衣食住の生活」衣生活領域の指導内容・学習内容についての理解する。 ～伝統と文化～浴衣の着付けをしよう～</p>								
授業計画【第7回】	<p>「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 日本型朝食～ごはんとみそ汁の作り方 計画～</p>								
授業計画【第8回】	<p>「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 ごはんとみそ汁、副菜の調理実習</p>								
授業計画【第9回】	<p>「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 ごはんとみそ汁の調理実習の反省、自由献立調理実習の計画</p>								
授業計画【第10回】	<p>「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 自由献立調理実習の反省と非常食を作ろうの準備</p>								

授業計画 【第11回】	「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 非常食の調理実習と反省 吾妻袋の計画
授業計画 【第12回】	「B 衣食住の生活」衣領域の指導内容 吾妻袋の製作
授業計画 【第13回】	「B 衣食住の生活」衣領域の指導内容 手ぬぐいでトートバッグ製作（ミシン縫い）①
授業計画 【第14回】	「B 衣食住の生活」衣領域の指導内容 手ぬぐいでトートバッグ製作（ミシン縫い）②
授業計画 【第15回】	「B 衣食住の生活」衣領域の指導内容 フェルトでの小物づくり
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学校家庭科の特質を踏まえ、教育内容について理解します。 2 家庭科の授業展開に関する実践的な授業技術を身に付けます。 3 家庭科を実際に指導する際の基礎・基本的な知識や技術を習得します。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	技能や技術を高めるために包丁の使い方、玉止め、玉結びなどの手縫いの基礎などの練習をしてください。
授業時間外学習【復習】	授業で得た知識や技能を家庭でぜひ実践し、応用してより新しいことに挑戦してほしいです。
課題に対する フィードバック	実習や作品提出については詳しく解説します。また、実習では学生と一緒に実技を行い、わかりやすくします。
評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 作品提出—各実習の感想、吾妻袋、トートバッグ、小物—60点 2 実習・講義への参加（関心、意欲、態度）—10点 3 定期考査—30点
テキスト	必要なものは、その都度、資料として配布します。
参考書	学習指導要領解説 家庭科編 東洋出版
備考	裁縫セット（小学校時代に使っていたもので可）、エプロン、三角巾が必要です。